

「仏教と共に日本に伝来」

八頭郡家「白兔伝説」に新解釈

歴史愛好家の新さんが研究成果を著書に

八頭町の歴史愛好家が、同町郡家地区に伝わる「白兔伝説」はインドの仏教説話に由来し、仏教と共に日本に伝来した「などとする新しい解釈を唱え、注目を集めている。20年近くにわたる研究成果を一冊の本にまとめ、著書「山の白兔伝説の謎に迫る」として自費出版した。

(井田慎一)



「もう一つの白兔伝説、の謎に迫る著書」を出版した新さん
＝八頭町福本の白兔神社

この歴史愛好家は、八頭「因幡の白兔」が有名だが、町郷土歴史研究会会長の新誠さん(66)＝同町福本。個人事業主として配置業の営業を営む傍ら、2004年から地元で伝わる白兔伝説の研究を続けている。鳥取県内では、鳥取市の尾の青龍寺(旧城光寺)の

「因幡の白兔」が有名だが、八頭町郡家には別の白兔伝説がある。同町池田の中山に降臨した天照大神が、白兔に案内された霊石山(鳥取市河原町稲常)を気に入り、その地で暮らしたという説話で、八頭町下門祭った神社の地誌や歴史書を

歴史を記した「城光寺縁起」などの書物に登場する。書物は江戸時代の1858年(ころに編さんされたものだが、新さんは「伝説の起源を知りたい」と研究に没頭。全国に点在する兔を

調査対象は中国や朝鮮半島まで拡大しており、研究が長期化する中で「誰かが記録を残さなければ」と感じるようになり、今回の本の出版にいたったという。

新さんは「これまでの研究のエキスを盛り込むことができた」と喜び、「まだ調査の余地が残されている」と研究継続に意欲を示した。

同書はA5判84ページ、1320円。300冊限定出版し、今井書店などで販売している。

いて地元住民から伝承について聞き取りを行ったたりするなど、地道な調査の末、白兔信仰の起源は古代までさかのぼる「ことを突き止めた。

新さんは研究で、鳥取市白兔や大山町東積など白兔信仰の伝わる地域は、古事記に登場する『天穂日命』を祖先とする一族の納めた土地であること、白兔信仰は月にウサギがいると説くインドの仏教神話「ジャータカ物語」に由来し、仏教と共に日本に伝わった「など、愛好家にとって興味深い解釈を著書の中で体系立てて展開している。